

司法要員會同ニ於ケル
軍政監訓示

昭和十八年九月十日
馬來軍政監部

本日茲ニ諸官ト會シ所懷ノ一端
ヲ述ブルノ機ヲ得タルコトハ本
職ノ欣快トスル所ナリ
當軍政治下ニ於ケル司法ハ昨年
五月再開以來概ネ凝滞ナク遂行
サレ來リ裁判檢察行刑ノ三方面
ニ亘リ何レモ其ノ成果ノ見ル可

キモノアルコトハ寔ニ同慶ニ堪
ヘザル所ニシテ諸官ノ熱誠眞摯
ナル努力ニ對シテ茲ニ敬意ノ表
スル次第ナリ
惟フニ司法ハ道義ヲ顯揚シ國家
社會ノ秩序竝ニ治安ヲ維持増進
スルヲ以テ其ノ主タル目的ト爲
シ此ノ目的ヲ達成スルガ爲ニ法
ノ運用ヲ爲スモノナルコト今更

多言ヲ要セザル所ニシテ此ノ司
法本來ノ性格使命ハ軍政地域ニ
於テモ亦努メテ之ヲ顯揚スベキ
モノト信ス然レ共此ノ點ニ付特
ニ諸官ノ注意ヲ喚起シ置キタキ
コトアリ夫ハ右司法ノ性格使命
ヲ強調シ抽象化するノ余リ現實
ト遊離シ或ハ徒ニ論理偏重ノ弊
ニ陥ルガ如キコトナカラシコト

之ナリ
平時ト雖モ司法ノ運用ハ素ヨリ
其ノ時ノ國家社會ノ實相ヲ把握
シ國家ノ公正ナル方針ヲ体シ之
ト乖離スベカラザルコト勿論ナ
ルガ此ノ事ハ時々刻々作戰ノ進
展ニ連レ諸事推移變化スル占領
地軍政下ニ於テハ殊ニ然リト謂
ハザルベカラズ、否現段階ニ於テ

ハ司法ト雖モ亦實ニ作戰ノ一部
ヲ爲シ前線ニ於ケル熾烈ナル戦
闘ニ脈々繋リヲ有スルモノナル
コトヲ銘記セラレ度
幸ニ諸官ノ現在迄ノ業績ヲ看ル
ニ現實遊離乃至論理偏重ノ跡ノ
如キハ之ヲ認メ得サルコト勿論
ナルモ機構ノ整備確立ニ伴ヒ却
テ鹿ヲ逐フ獵師山ヲ見ザルノ弊

ニ陥ルコト世上往々ニシテ之有
ヲ以テ特ニ右ノ點ニ付注意セラ
レ度一言シタル次第ナリ
今次司法組織ノ整備在留日本人
ノ審判制度ヲ確立セントスル趣
旨モ司法ノ事ハ恒久的性質ヲ有
スルト同時ニ其ノ具體的運用ハ
治安ノ根本ニ觸レ作戰ニ膚接シ
テ勝利ヘノ一因子ヲ爲ス所以ニ

着目シタル結果ニ外ナラス而シテ以上ノ司法組織及日本人審判制度ニ付テハ夫々茲ニ仮案ヲ示シタル所ニシテ諸官ガ之ニ公平素ノ研究ト蘊蓄トヲ傾ケ活潑且率直ニ意見ヲ開陳シ以テ司法制度ノ確立ニ寄與スベキコトハ本職ノ期待スル所ナリ此ノ點ニ関シ本職ヨリ若干ノ希望ヲ述べレ

バ第一ニ司法制度ハ強靱ニシテ
彈力性アルコトヲ要ス固ヨリ司
法本來ノ使命性格ヲ無視スルヲ
得ザルコト勿論ナルモ理論ニ偽
スルノ余リ脆弱ニシテ生硬ナル
制度タラシカ到底軍政治下ノ司
法タル資格ナシト信ズ法ヲ執ル
者ヲシテ法律制度ノ機械的奴隸
タラシメザル爲ニモ制度ノ強靱

ニシテ弾力性アルコトヲ必要ト
スベシ、第二ニ司法制度ハ簡明ナ
ルコトヲ要ス、簡明トハ粗略ニ非
ス、簡明ハ内ニ深切心ヲ藏ス、粗
略ハ正ニ此ノ反對ナリト知ルベシ。
形式ニ流レ煩瑣ニ墮スルハ粗略
ト同ジク軍政治下ニ於テハ許ス
ベカラザル悪徳ナリト信ズ、機
整備ヲ為シタルガ為ニ從來ニ

五

シ事務煩雜ニ流ルルガ如キコト
断ジテ之ナキ様特ニ注意ヲ要ス
第三ニ制度ノ日本化ト言フコト
之ナリ此ノ事ハ固ヨリ早急ニ實
現スベカラザル所ナルモ當地域
ニ行ハルル在來法ト言フモ多ク
ハ英人ノ招來工夫シタルモノナ
ルベシ此等法制ニ比シテ我が日
本法ガ劣等ナラバ即チ休ム然ラ

ザルコト明ナル以上在來ノ法律
制度ヲ徐々ニ日本化スベキコト
ハ實ニ諸官ニ課セラレタル命題
ナリト信ズ第四ニ司法制度ノ整
備ニ関シテハ關係方面ト連絡提
携ヲ密ニシ其ノ意見ヲ參酌スベ
キコトト之ナリ制度ノ整備ト謂フ
ハ條章ノ排列按配ノ巧緻ヲ謂フ
ニ非ズシテ實際ニ即シ適切ナル

效果ヲ擧グルコトヲ以テ其ノ目的トス司法ノコトハ関係スル所多キヲ以テ之等諸方面ト意見ノ交換ヲ為スコトヲ惜シマザル様留意スベシ又本日列席ノ関係各位ニ於カレテモ何卒率直ニ御意見ヲ開陳セラレ度特ニ此ノ席ヨリ御願ヒスル次第ナリ尚司法組織及日本人審判制度等

1554

二付テハ本會同後諸官ノ意見ヲ
参酌シ、可及的速力ニ立法シ、
之ヲ實施致シ度キ考ナリ
司法機構整備ノ問題ヲ離レ更ニ
一言スヘキコトハ治安並ニ經濟
ヲ攪乱スル犯罪ニ関シテハ現下
ノ實情ニ鑑ミ断乎處置セラレ度
此ノ點ニ付テハ殊ニ諸官ノ工夫
努力ニ俟ツ所多シト信ス、經濟統

制法規ノ運用ニ付テモ本會同ニ
於テ活潑ニ意見ノ交換アルコト
ヲ期待スル次第ナリ
司法組織日本人審判制度等ノ確
立セラレタル場合ト雖モ人的資
源其ノ他ノ關係上當分ノ間ハ現
在ノ司法要員ヲ以テ運営シ行ク
ノ外ナク從テ審判官諸官ヲ以テ
檢察官ノ不足ヲ補フ等ノコト或

ハ北部三州ノ司法要員ヲ他州ニ
配置スル等ノコトニ伴ヒ人事ノ
異動ヲ免ガレザル所ナルモ之等
ニ関シテモ亦減私奉公ノ精神ヲ
以テ當タラレシコトヲ希望ス
尚細部ノ諸事項ニ関シテハ司法
科長ヲシテ説明セシム